

# 鉛瓦葺きについて

ちゅう ぞう

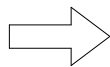
## 鑄造

①～③

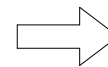
- ・溶かした鉛を鑄型に流し、  
軒平・軒丸瓦を製造する。



①軒平瓦鑄造状況1  
鑄型に溶かした鉛を流し込む。



②軒平瓦鑄造状況2  
鑄型から軒平瓦を取り出す。



③軒平瓦鑄造完了

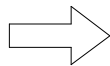
## 加工

④～⑥

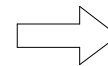
- ・木型に合わせて鉛軒平瓦と  
軒丸瓦を取付ける。



④軒丸瓦加工状況  
鉛軒丸瓦を木下地に被せ、  
背面を曲げ込む。



⑤軒平瓦加工状況  
木下地の軒平瓦幅に合わせて、鉛軒平瓦側面を加工。



⑥軒平瓦加工完了

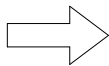
## 取付け

⑦～⑩

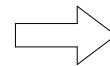
- ・平瓦部分に鉛板を葺く。  
・瓦棒部分に鉛板を葺く。



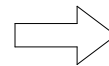
⑦軒平瓦取付け状況  
鉛軒平瓦を被せ、上端と側面に銅釘止め。



⑧軒丸瓦取付け状況

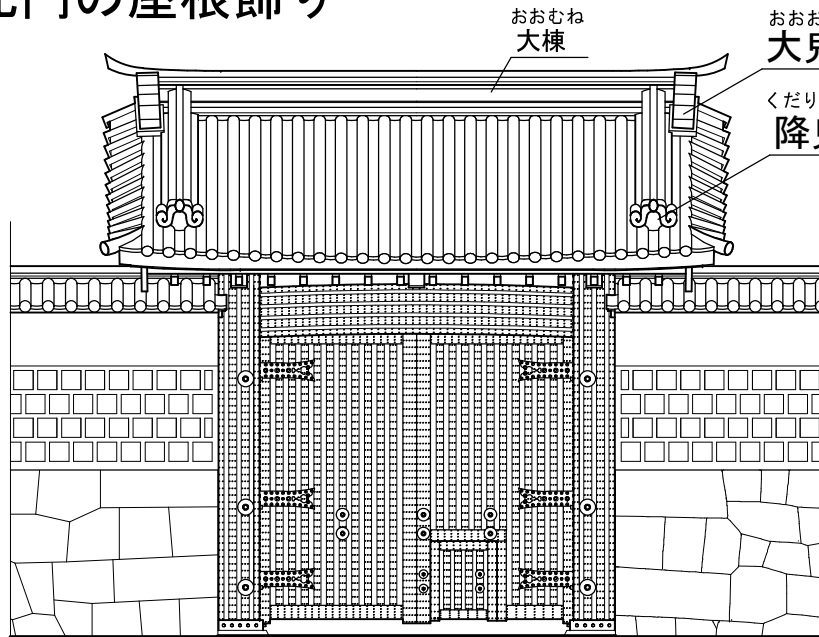


⑨鉛平葺き状況  
長さ1尺5寸、葺足1尺1寸。

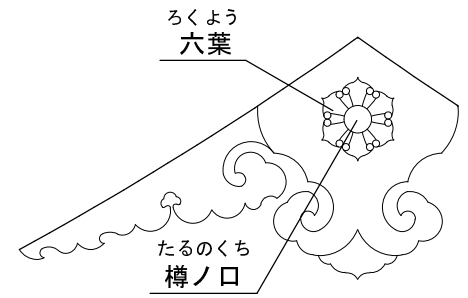


⑩鉛丸葺き状況  
平葺きと目を半分ずらして葺く。

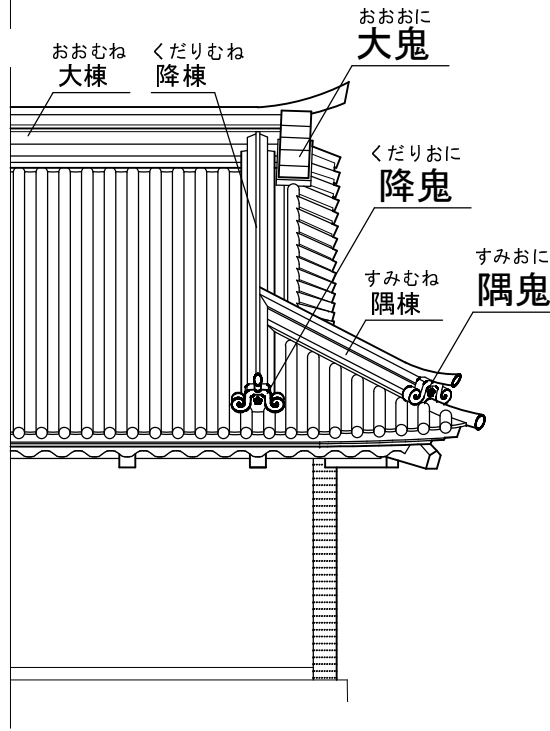
# 河北門の屋根飾り



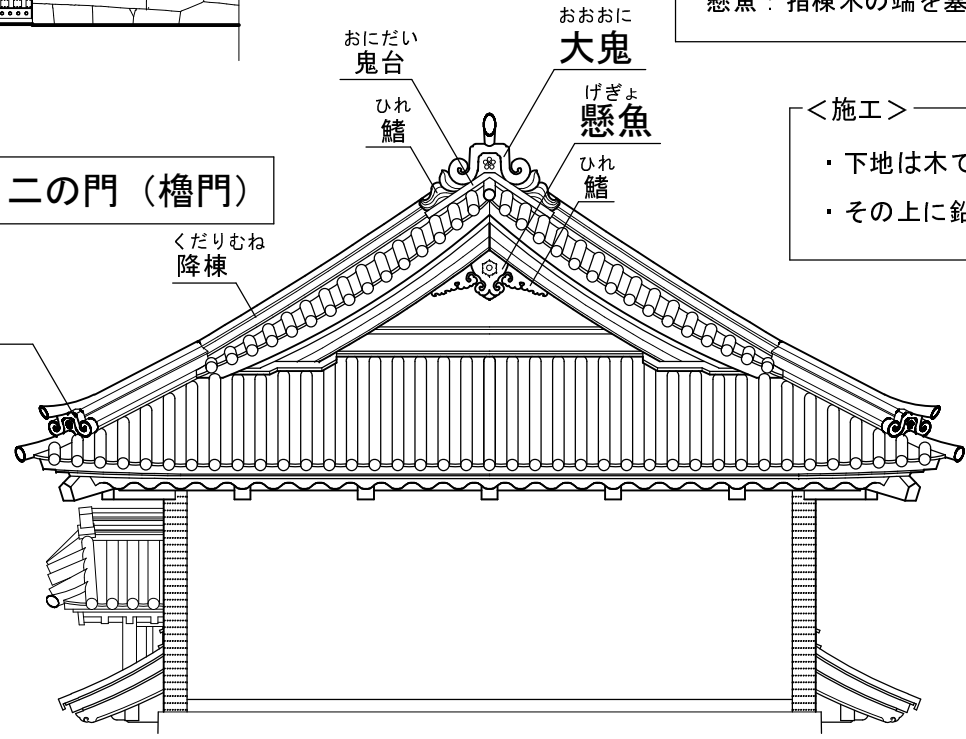
一の門（高麗門）



鬼：大棟、降棟の端部を塞ぐ目的を持った、飾り瓦  
 懸魚：指棟木の端を塞ぐ目的を持った、装飾板



二の門（櫓門）



<施工>  
 ・下地は木で、大工が加工・・・木工事  
 ・その上に鉛を巻く・・・板金工事

# 左官工程について



① 荒土作り（切り返し）



② 竹小舞搔き（壁部分）



②-2 竹小舞搔き（軒裏部分）



③ 荒打ち



③-2. 裏返し



④ 大直し（下縄伏せ込み）



⑤ 斑直し（垂木波型）

あらつち つく  
① 荒土作り



たけこまい か  
② 竹小舞搔き



あらう  
③ 荒打ち

③-2. 裏返し



おお なお  
④ 大直し



むら なお  
⑤ 斑直し



なか ぬ  
⑥ 中塗り



しっくいぬ  
⑦ 漆喰塗り

- ・ 山土に<sup>すさ</sup>苧、水を入れて練り、1年以上寝かせる。
- ・ 苧とは、稲藁を切断したもの。
- ・ 土や苧の微生物により発酵し、粘りのある壁土となる。
- ・ 1年以上寝かせる間に、何度か苧を入れ練り直す。（写真①）

- ・ 直径24~30mm（8分~1寸）の竹を縦横に組み、<sup>わらなわ</sup>藁縄にて固定する。この格子状に組まれた竹を竹小舞といい、藁縄で竹小舞を縛っていくことを竹小舞搔きという。（写真②）
- ・ 軒裏の木部表面には、割った竹に藁縄を巻き付け、木部に釘にて止める。（写真②-2）

- ・ 1年以上寝かせた粘りのある土を団子状にし、竹小舞めがけて投げ付ける。そうすることで竹小舞の裏側にまでしっかり土をまわす。（写真③）
- ・ 荒打ち完了後、背面にも荒土を塗る。これを裏返しという。（写真③-2）

- ・ 荒壁の水分が抜けて乾いてくると、壁の表面が<sup>なら</sup>デコボコになる。そのデコボコを均す工程が、斑直しである。
- ・ 壁の厚みがある場合、斑直しを複数回行うため、最初を大直し（大斑直し）、最後を斑直し（小斑直し）という。（写真④~⑤）

- ・ 中塗では、荒土に細かめの苧と砂を混ぜて練った土を塗り、壁の表面を平に仕上げていく。（漆喰を塗らない場合、中塗りが仕上げとなる。）

- ・ 消石灰に貝灰、砂、糊、苧を混ぜて水で練ったものを塗る。

平成21年6月13日現在